

協会活動
報告

山東理工大学農業工程學院訪日記

科学技術振興機構（JST）

「さくらサイエンスプラン」の助成で当協会が受け入れ機関となり、11月8日（日）から14日（土）までの1週間、山東理工大学農業工程學院の研修団が来日し、農業関係の研究所、大学、工場などを訪問・研修する手伝いをした。

一行は团长王相友教授以下9名で、大崎のホテルを拠点に活動した。

初日の9日は八島、日野、村田、志村、そして中国語通訳者の姜さんと協会側のスタッフが勢ぞろいし、中国側団員10名と初めての見学先「東京都立食品技術センター」を訪問、食品分析の開放実験室等の見学をした。午後は、秋葉原よりつくばエクスプレスで、つくば市にある農水省の農研機構食品総合研究所を訪問、研究員から「食品への放射線利用」についての講

義を受け研究施設を見学、食品梱包物の「衝撃テスト」などの実験施設などを見学した。

10日は、府中市のサントリー武蔵野工場でビールの生産工程を見学。見学後出来立ての「プレミアム・モルツ」などを試飲し見学を終えた。午後は新宿の「伊勢丹」地下食品売り場を見学した。中国人学生は自分の研究対象の「野菜売り場」で熱心に観察していた。学生たちは食品でも食肉や水産物は研究対象外のため、「野菜」及び「果物」について売り場の陳列を回っていた。

3日目の11日は晴天に恵まれ松戸市にある千葉大学園芸学部を訪問。研究内容の説明を受け、園芸学部准教授と藩陽からの女子留学生（修士）の案内でキャンパスの農園・ビニールハウスなどを回った。大学内の「食堂」で昼食をとり、午後は

東京都庁を訪問。45階の展望から都内を展望、学生たちも満足げだった。

翌12日は大森に移動し、日本最大の取扱量を誇る大田市場を訪問、次いで城南島飼料化センターを訪問した。城南島は人工島でセンターの事業は、スーパーや店舗・学校給食の期限切れ食品等を回収し製品ホッパーにする資源循環型企業である。見学承認通知書には「マスク」着用と書かれていたため、なぜマスクが必要なのかと思っただが、強烈な臭気のためと了解した。

13日は青山の「TEPIA先端技術館」を見学した。農業関係展示ブースを見つけ団員は日本先端技術に興味深く見入っていた。

3時過ぎ国際善隣協会を訪問し、科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」側から、訪日研修終了証が団員全員に授与



された。答礼として、王相友教授による講演があり、山東省淄博市の大学キャンパスの概要説明があった。

5時から理工大農業工程學院の歓迎交流会を開催し、村瀬事務局長の音頭で乾杯し歓迎会が行われ、7時近くまで中国側と歓談し日中交流ができた。長年、日中貿易に携わってきた新宅久夫氏が苦労話を披露し、訪日団の皆さんには親近感を持った人が多かった。

翌日羽田空港に八島顧問・姜晋如さん、村田が見送りをした。再見！（村田嘉明）